

におけるきずなと農民層分解」

北原 淳 「タイ農村の就業構造」

酒井恵眞・白樺久・小内透 「山陰平場農村における

兼業化の進展と村落生活」

相川良彦 「村落活動の展開と論理」

2 村研年報 第二三集のタイトルは「土地と村落II—村落の変貌と土地利用秩序」であるが、実際のタイトルは御茶の水書房にまかせる。

3 村研年報 第二三集の目次は次の通りとする。

「村落社会研究会」 第二三集 目次

△共通課題▽ 「村と土地—村落の変貌と土地利用秩序」

1 課題報告

(1) 岩本 由輝 「本源的土地区分とムラの土地利用」 一〇一枚

(2) 西川 善介 「入会林野と村落」

(3) 長谷川昭彦 「村落の変貌と土地利用体系の展開」 七八枚

2 特別寄稿

永田恵十郎 「過疎の“むら”の明暗

—島根県旭町の調査結果から—」 四二枚

3 自由論題

春日 文雄 「土地整理期の沖縄農村構造—羽地間切

—稻嶺村を中心として—」 五一枚

4 研究動向

長谷部 弘 「史学・経済史における村落研究動向」 一二枚

村落年報編集委員会が一九八七年五月九日(土)午後二時から明治大学大学院二〇五号室で開催され、さらに村落年報第一三集の原稿が集まりましたので、それについて下記のように御報告いたします。

1 応募原稿は次の諸氏から申し込みがありましたが、何れも辞退して春日論文のみとなりました。春日が論文については、二名の編集委員に閲読を依頼しました結果、部分的に手直しすれば掲載可ということで返送して手直ししてもらい再度原稿を提出してもらいました。

△掲載▽ 春日 文雄 「土地整理期の沖縄農村構造—羽地間切

稻嶺村を中心として—」

△辞退▽ 佐藤直由・内田司 「牡鹿半島漁村における戦後の漁家経営の状況」

蘭 信二 「満州農業移民—戦後集団再入植開拓村

△経済学・農業経済学▽

久力 文夫 「農業経済学の研究動向」

△社会学・農村社会学▽

白樺 久 「社会学の研究動向」

△法学・農業法律▽

林 研三 「最近の法社会学における村落研究の動向」

一一二枚

一一一枚

一二五枚

四四三枚

合 計

4 村研年報の原稿は取り揃えて六月一四日(火)に御茶の水書房

に持参した。

初校は八月上旬、十月五、六日の村研大会に間に合つよう年報を

発行する。

5 二四集以降の発行は御茶の水書房では扱わない。それに関しては四月一日に運営委員会との合同委員会がもたれ、農山漁村文化協会(農文協)に依頼することがきまり、現在折衝中です。

6 △連絡先▽ 十三六 相模原市御園三一〇一〇 長谷川昭彦方
□ ○四二七一四一一三九三一

村研年報編集委員会事務局

(事務局)

「年報」発行について

年報発行について、上記のように年報編集委員会から報告が寄せられておりますが、事務局よりその後の経緯を報告いたします。

安孫子氏の御世話により五月一一日二時より、安孫子氏、事務局高山両人で農文協の専務理事 坂本氏、編集局次長 中田氏、部長原田氏と面談し、「年報」の発行のいきさつ、現況の説明をいたしました。当日、安原編集委員も出席予定でしたが、都合により不参加となりました。農文協の中田氏には年報を参考のため、あらかじめ送付しておきました。

話し合いの結果、農文協としては年報発行について前回きに検討するということになりました。なお、発行条件、年報費を会費に加えて徴収するかなど、事務的な問題も含めて今後検討し、事務局高山に連絡するということにいたしました。

六月初旬に、部長の原田氏より高山に電話で、来年度より年報発行を引受けの方針が農文協で一応決定した旨の連絡を受けました。については、大会までに発行条件を具体的に事務局、編集委員とともに農文協側と詰め、成案を得て総会に提案する予定となつたことを御報告いたします。年報発行の日程がついたことに関しまして、事務局からも安孫子氏に厚く感謝する次第でございます。